

海保曳航器材訓練

2021年 7月10日

- 日時：令和3年7月5日（月） 13：00～15：30
- 場所：御前崎港、なぶら館
- 参加者：（OSP）増田、近藤、
（USPR）野口、曾根、土屋、福島、鷺坂、望月、松下正、松下裕、松村
（海保）本庁3名、御前崎海上保安署2名
（関東小型船舶安全協会御前崎支所）下村、今福、他1名

このたび海上保安庁が開発した、水上オートバイをはじめとする小型ボートを曳航するための器材の紹介と実際の装着訓練が7月5日、御前崎港市場前の水域で実施された。これは近年多発する小型ボートの事故に対応したもので、特に水上オートバイを曳航する際、曳航ロープを装着するには水中に入水するか、あるいは体勢的に厳しい姿勢をとらなければならず、危険が伴う作業であった。今回のこの器材を活用することにより、より安全に素早く装着、曳航できるようになるというもの。

この日は開発者でもある、海上保安庁交通部安全対策課の伊藤係長（元御前崎海上保安署勤務）がみえられ、直接指導に当たってくださった。御前崎からは関東小型船舶安全協会御前崎支部から3名、御前崎渚の交番救難所から4名、USPR掛川救難所から4名、相良救難所から3名が参加。まずは御前崎港内の陸上で装着の手順を全員で教えていただき、その後、実際に岸壁に係船した状態の水上オートバイへの装着を一人一人体験し、全員が体験し終えたところで、少し岸壁から離れて港内の海上で装着と曳航を行った。

体験を終えた後はなぶら館へ移動して、ブリーフィング&質疑応答の時間を持った。ここでは開発の経緯と器材のポイント、実際に使用してみたの感想などをシェアリング。実際に開発した本人に直接、質問できるという貴重な時間で、非常に有意義だった。開発していく中でも裏話なども聞けて非常に興味深いものだった。すでに一般販売されているとのことだったが、実際に購入するとなると1式40万ほどするとのこと、即導入というのは現状での必要性も含めて難しそうである。

ただし、改良や価格改定などにより、さらに簡素化し、価格帯も下がってくれば十分に有用な器材であると感じた。いずれにせよ、より安全確実に救助にあたるための資器材として、今後も注目していくと同時に、導入においても検討していきたい。

